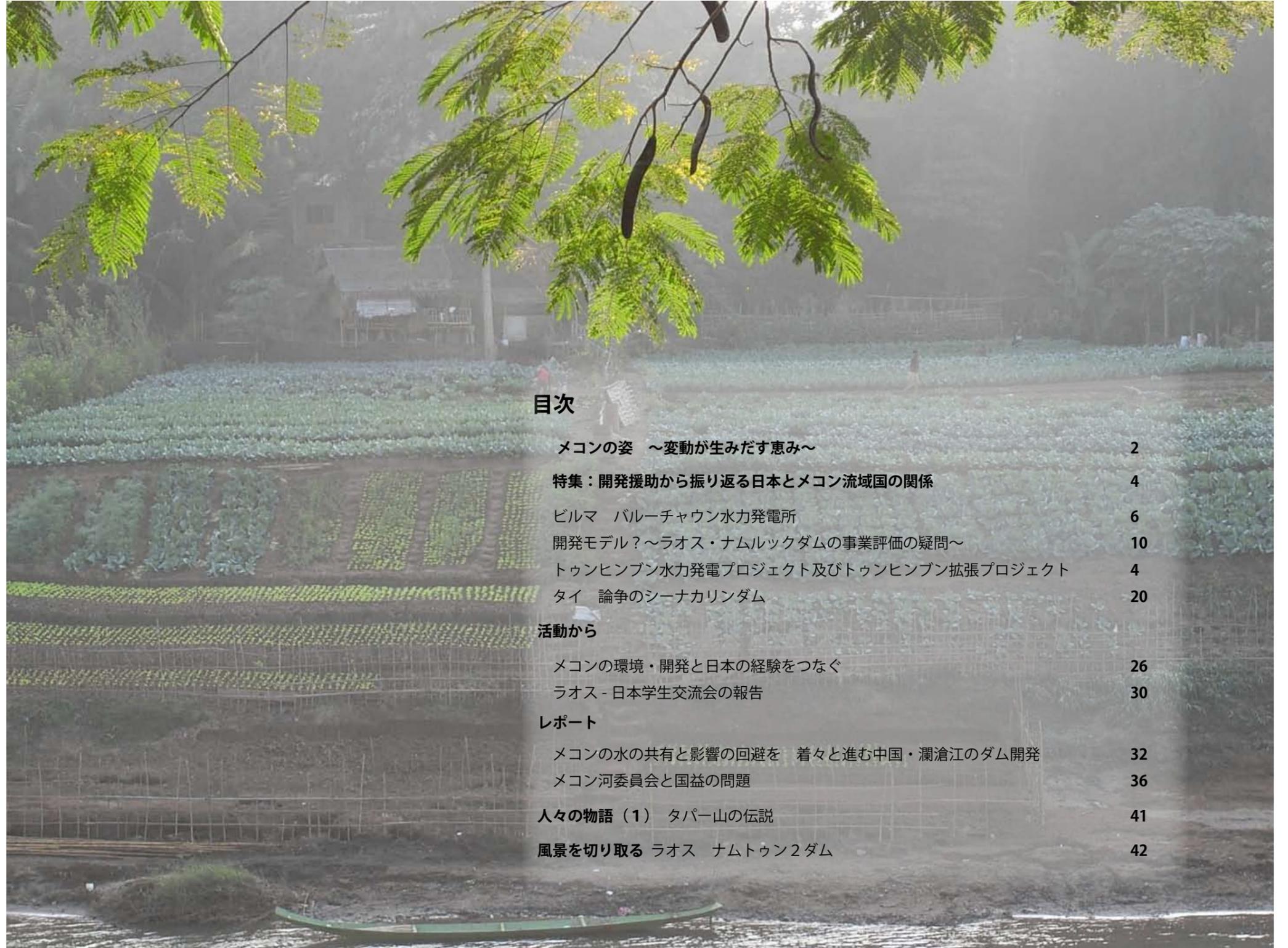




メコンの姿 ～変動が生みだす恵み～

12月から4月にかけてラオスを訪れたら、朝や夕方、川のほとりを眺めてみるべきだ。滔々と流れていたメコン河とその支流は、乾季に大きく水位を下げ、人々は村からだんだん遠くなる川面を眺めながら、種まきの頃合いをはかる。川の底に沈んでいた土地はこの季節、美しい野菜畑に変わる。静かな場所では、プチプチと不思議な音が聞こえることもある。どうやら、ミミズが土を食べている音らしい。
(表紙：ラオス・ルアンパバンの河岸畑 撮影：木口由香)



目次

メコンの姿 ～変動が生みだす恵み～	2
特集：開発援助から振り返る日本とメコン流域国の関係	4
ビルマ バルーチャウン水力発電所	6
開発モデル？～ラオス・ナムルックダム of 事業評価の疑問～	10
トゥンヒンブン水力発電プロジェクト及びトゥンヒンブン拡張プロジェクト	4
タイ 論争のシーナカリンダム	20
活動から	
メコンの環境・開発と日本の経験をつなぐ	26
ラオス-日本学生交流会の報告	30
レポート	
メコンの水の共有と影響の回避を 着々と進む中国・瀾滄江のダム開発	32
メコン河委員会と国益の問題	36
人々の物語(1) タパー山の伝説	41
風景を切り取る ラオス ナムトゥン2ダム	42